



特集

お釈迦様ものがたり

高弟二人の早すぎる死

14



お釈迦様は多くの人に道を説きつづけ、教団も発展してきました。老境に入ったお釈迦様を悲しませる出来事が起ります。それは、十大弟子のマウドガリヤーヤナ（目連）とシャーリーーブトラ（舍利弗）、二人の早すぎる死でした。

教えに殉じた目連

お釈迦様が七十歳を過ぎた頃、病気がちの舍利弗に代わり、お釈迦様の代役を務めたのが目連でした。発展する仏教に押され、既成宗教は窮地に陥りました。過激な一派が、仏教幹部の暗殺を企てました。ところが、お釈迦様

には、各地の国王が帰依しており、手が出せません。そこで目をつけたのが目連です。目連は、暇ができると、近くの山に入って座禅を組んでいました。過激集団は大勢の浮浪者を雇い、そこを狙いました。

目連が山で座禅をしていると、突然喚声が上がります。刀や棒を持った五十人以上の浮浪者が襲ってきました。目連はあわてることなく、浮浪者たちを見つめました。すると、浮浪者たちは魂を抜かれたようにその場に座り込んでしまいました。

目連の神通力に恐れをなした過激集団は、二度目は、遠くから弓で矢を射

No. 21
2007 Summer

山 松 舎
寺 南 臨

たり槍を投げることにしました。ところが、矢も槍も目連まで届かず、失敗してしまいました。

過激集団は三度目の襲撃を敢行しました。今度は石つぶてでした。浮浪者たちが投げた石が雨あられと目連を襲いました。石は、一つ当たり、二つ当たりして、とうとう目連は殺されてしまいました。目連は神通力を使わなかったのです。なぜ使わなかったのでしょうか？

お釈迦様はそんな疑問に答えられました。「目連は自分の体がいつか滅ぶことを知っていた。二度までは神通力で難を避けた。しかし三度まで襲われる因縁を感じ、従容としてそれを受け入れたのだ。教えに殉じた目連の死は、美しく尊い」

故郷で死を迎えた舍利弗

それから数年たち、死期の近いことを悟った舍利弗は、故郷に帰って涅槃に入ることをお釈迦様に願います。舍利弗の覚悟を知ったお釈迦様は、さ

びしく思われましたが、集まった弟子たちに言います。

「いま舍利弗は入涅槃に旅立つが、あなた方は悲しんではならぬ。嘆いてはならぬ。寂滅為楽は私の教えである」死によってこの世の悩みを脱し、安楽なあの世に生まれるのだから悲しむなど言われたのです。

舍利弗は、お釈迦様を拝したあと、合掌したまま一歩後ずさりして頭を下げ、また一歩下がって頭を下げ……お釈迦様に背を向けることなく退場したそうです。

故郷には舍利弗の母が待っていました。四十年ぶりにわが子の姿を見た母は大喜び。しかし、「母上、私は親孝行のために帰ってきたではありません。涅槃に入るためなのです」舍利弗の言葉を聞いた母は嘆き悲しみました。

自分の部屋に入った舍利弗は、ひどく咳き込みたくさんの血を吐きます。痛みが去ったあと、別れに集まった人々に、「私はまもなく涅槃に入りますが、あなた方は仏の道に精進してください」そう言い残して自室に戻り、右脇を下にして臥し、静かに息を引き取りました。空には満月が、最期を看取るのかのように輝いていました。

お釈迦様は、二人の死を悼み、功績をたたえて、二人の供養塔を建てさせ、供養をされたといわれています。

ご存知ですか？ お盆のしきたり

お盆は、正しくは「盂蘭盆会」と

言います。サンスクリット語の「ウランバーナ」を音訳したもので、「さかさまに吊るされた苦しさ」という意味です。地獄や餓鬼界などに落ちると、逆さ吊りにされるような苦しい思いをするというのです。

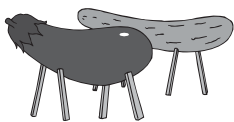
お盆の由来については、次のような話が伝わっています。

お釈迦様の高弟で「神通第一」と呼ばれた目連が、餓鬼界に落ちて苦しんでいる母を救うために、お釈迦様に教えを請うと、お釈迦様は「夏安吾の最後に僧たちが集まって懺悔しあう日に、僧たちに飲食を供養しなさい」と教えます。その教えどおりに供養してようやく母を救うこと

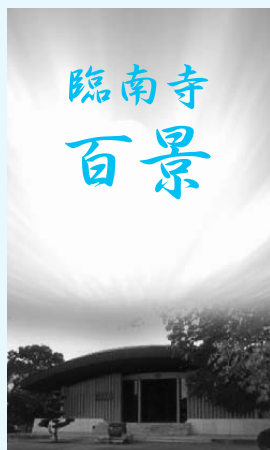
ができたのです。

これがお盆のいわれです。お盆の期間中は、家々で「精霊棚」を飾り、祖先を供養します。臨南寺でも、八月一日から、棚経を勤めさせていただきます。

八月十六日には、送り盆にあわせて盂蘭盆会施食会を、本堂において修業いたします。各家のご回向をさせていただきますので、ぜひご焼香にお参りください。ご都合が悪くてお参りできない方は、不参にてご回向をお受けいたしますので、お問合わせください。



臨南寺 景百



弁天堂

かつて臨南寺の境内には弁天堂というお堂がありました。そこに弁財天様をお祀りしていました。山門にある弁財天の石碑（大正十四年建立・本紙十五号で紹介）を見ても、臨南寺の弁財天は古くから有名であったことがうかがえます。

『長居郷土史・寺岡村小史』（編者 石田末吉）によれば「撰津の国

住吉郡寺岡村は、むかし住吉社領二万二千石の内、神須牟地神社随一の景地なり。地形は三つの島よりなる。南の島には神須牟地神鎮座す。中の島には伍大力菩薩、北の島には弁財天鎮座す。境内外に細江川流れる」と古書

にある。のち、戦火を受けて、伍大力菩薩は住吉神社の南の地藏寺に安置され、北の島の弁財天は臨南寺に安置せられている」とあります。

北の島というのは、臨南寺の北西に位置していました。そこにあった弁財天を臨南寺に移したようです。

かつての弁天堂は、本堂を建てるときに取り壊されました。弁天堂に飾られていた額（伊豆修善寺住職・大本山永平寺初代副首首・丘球学書）が、今も本堂の左奥に飾られていますので、お参りのときにご覧ください（写真）。弁財天様については、またの機会にご紹介いたします。



住職 日誌

山川草木すべてに仏性あり



臨南寺 住職 大澤正道

早いもので今年も半分を過ぎました。最近気になるのは、家族同士の殺し合いの多さです。夫が妻を殺す、妻が夫を殺す、親が子どもを殺す、そして子どもが親を殺す。

いったい、どうしてこんなことが起こるのでしょうか、それも毎日のように。命のゲーム化とも言われます。でも、命は決してゲームのようにリセットはされません。どうも、身勝手な人が増えてきたような気がします。自分の思い通りにならないと、その人を目の前から排除する。非常に短絡的です。人を殺せば、親子、夫婦であればなおさら、殺す前よりいっそうややこしい事態になることは目に見えているのに、です。

道元禅師は「山川草木すべてに仏性あり」といわれました。草や木、虫、鳥、獣、もちろん人間も含めて、生きとし生けるものすべてに仏様が宿っているということです。

多少気に食わない夫でも、縁あつて結ばれた夫婦です。何か私の足りないところに気づかせてくれるために、お釈迦様が遣わされたのかもしれないのです。

認知症の奥さんを介護していたご主人、あまりのつらさに無理心中まで考えたそうです。でも、あるとき、ふつと道元禅師の言葉を知って、「妻はお釈迦様なんや。お世話をさせてもらっている。ありがたいなあ」と思うようになったといっています。ものは考えようなのです。自分の思い通りにしようとして、いつも文句を言っていますか？

時には、相手の思いを受け入れてあげましょう。そうするときに相手にも変化が現れるに違いありません。

弁財天万灯会にお参りください

八月十二日(日)、臨南寺の境内は幻想的な雰囲気になります。本堂前で、弁財天様への献灯を用意しています。皆様の願い事を書き入れ、お供えいたしましょう。万灯会は、お盆の迎え火でもあります。ご先祖や亡き人へのご供養とともに、皆様の願いをご祈念させていただきます。

秋のお彼岸にはお写経を



九月二十日(木)～二十五日(火)の六日間、彼岸会写経会を行います。一文字一文字心を込めてのお写経は、さまざまな功德をもたらします。先祖を供養し、故人の冥福を祈り、浄福を授かります。お写経は、大本山總持寺に納経させていただきます。お気軽にお申し込みください。

臨南寺行事予定 (七～九月)

檀家様

■ 墓経

八月十日(金)午前十時～十二時 受付は午前十二時半まで
八月十二日(日)午後七時～九時 受付は午後八時半まで
*両日、ご都合のよい日にお越しください。臨南寺に墓地をお持ちの方に限ります。

■ 弁財天万灯会 (本堂)

八月十二日(日)午後六時～九時 受付は八時まで
学問・財福・音楽、そのほかすべての願いを叶えてくださる弁財天様に、願いを託した献灯をたくさんお供えして、福を授かりましょう。

■ 孟蘭盆会施食会

八月十六日(木)午前九時～午後一時 受付は十二時半まで
各家のご先祖とご縁の深い精霊のご供養のため、法要をとりおこないます。

■ 彼岸会写経会

九月二十日(木)～二十五日(火)午前十時～午後四時
墓苑事務所にて受け付けております。お気軽にお申し付けください。費用千円

■ 彼岸会施食会 (本堂)

九月二十六日(水)午後二時～三時 受付は二時半まで
お彼岸は大自然にそしてお先祖様に感謝する大事な期間です。家族そろってお墓参りをし、ご先祖様を偲び、自分が今あることを感謝いたしましょう。

墓檀家様

■ 墓経

八月十日(金)午前十時～十二時 受付は午前十二時半まで
八月十二日(日)午後七時～九時 受付は午後八時半まで
*両日、ご都合のよい日にお越しください。臨南寺に墓地をお持ちの方に限ります。

世界陸上の
期間中は
マイカーでの
墓参りを
ご遠慮ください



八月二十五日(土)～九月二日(日)、お隣の長居陸上競技場で世界陸上競技選手権大阪大会が開催されます。二百十二の国と地域から三千二百人の選手・役員が参加します。臨南寺周辺も大勢の観客でにぎわうことが予想され、当山の駐車場も警察に提供することになる場合も考えられます。

期間中のお墓参りは、マイカーのご使用を控えていただき、地下鉄やJRなどをご利用くださいますようお願いいたします。



晋山式のお稚児さんを募集します。

臨南寺では、十二月二日・三日晋山式を行います。

晋山式は、新たに任命された住職(新命方丈といいます)がお寺に入る儀式のことです。本来なら、任命後すぐに晋山式を行うのですが、近年では、まず住職として内移りをし、改めて檀家の方々と相談して執り行うのが通例となっております。

臨南寺でも、平成十六年に大澤正道が新住職に就任しておりますが、その晋山式を今年十一月に執り行うことになりました。

そこで、晋山式のお稚児行列に参加するお稚児さんを募集します。五歳～十歳の女兒・男児を五十人、先着順です。衣装は当山でご用意しますので、お気軽にお問い合わせください。

※お稚児さん行列は、十二月三日の早朝に行います。



問合せ先・臨南寺「晋山式準備室」
電話 06-6698-1001

マトリ合同法要 しめやかに



五月十三日(日) 午後一時過ぎからがっしょう園マトリの合同法要が営まれました。本堂で、浄春寺(天王寺区夕陽丘)住職の佐藤徹亮老師の法話を聞いたのち、マトリに移動し、読経が続くなかで、焼香し、合掌いたしました。

お墓の継承者がいなくても、永代にわたって供養してもらえるマトリ。年々入会する方が増えています。

お気軽にどうぞ

早朝坐禅会

毎月第一土曜日 午前六時半～
※一月・八月・十一月は、お休みさせていただきます。

写経会

毎月二十日 午前十時～午後四時
写経料・千円

※いずれも事前のお申し込みが必要です。

編集後記

先日、ある書物で道元と親鸞が会っていたという話を読みました。同時代の人ですし、同じ京都に住んでいたわけですから、そんなことがあっても不思議はありません。もっと道元禅師のことを知りたくまりました。勉強会でも立ち上げられればと思いますが、興味のある方はぜひご一報ください。(M)

「ほ～っと」21号

平成19年7月

編集・発行： 稜伽林「ほ～っと」
編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-711-493

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール： rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ： <http://www.rinnanji.com>